

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果(幡羅中学校)

平均正答率

(単位%)

年度		国語A	国語B	数学A	数学B
H28	幡羅中	76.7	69.7	62.3	44.0
	県	74.9	65.6	60.3	43.2
	国	75.6	66.5	62.2	44.1

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	幡羅中	県	国
生活習慣	・毎日朝食を食べている	97.2	94.1	93.3
	・毎日、同じくらいの時刻に寝ている	84.9	77.8	75.2
	・毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.5	92.6	92.3
	・学校のきまり(規則)を守っている	98.8	95.7	94.7
学習習慣	・家で自分で計画を立てて勉強している	66.5	52.3	48.4
	・家で学校の宿題をしている	92.7	88.1	90.1
	・家で、学校の授業の予習をしている	48.1	40.5	34.2
	・家で、学校の授業の復習をしている	65.3	53.7	51.0
教科への関心	・国語の勉強は好きだ	81.0	58.8	59.8
	・国語の勉強は大切だと思う	97.2	91.5	89.1
	・数学の勉強は好きだ	71.5	54.2	56.0
	・数学の勉強は大切だと思う	92.2	82.1	80.5
その他	・将来の夢や目標をもっている	79.3	73.6	71.1
	・学校に行くのは楽しい	92.7	81.6	81.4
	・学校で好きな授業がある	84.9	78.1	79.9
	・今住んでいる地域の行事に参加している	63.1	41.3	45.2

幡羅中の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

○国語Aの平均正答率が76.7%となり、平成27年度の75.8%を、国語Bの平均正答率が69.7%となり、平成27年度の64.2%をそれぞれ上回ることができた。

●国語では、「文脈の中における語句の意味を理解する」「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」「文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉える」などの、「読むこと(能力)」に関する問題の正答率が低い。

【数学】

○数学Aの平均正答率が62.3%となり、平成27年度の61.1%を、数学Bの平均正答率が44.0%となり、平成27年度の40.6%をそれぞれ上回ることができた。

●数学では、「自然数の意味を理解している」「ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している」などの「数と式」に関する問題と、「具体的な場面における数量の関係を捉え、比例式をつくることのできる」「反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことのできる」などの、「関数」に関する問題の正答率が低い。

【質問紙】

○全体的に県や全国よりもよい結果がでている。特に生活習慣、学習習慣が高い。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」や、「学校で、好きな授業がありますか」の質問にたいして、そう思う、どちらかといえば思うと答えた生徒の割合が高く、充実した学校生活を送れている。

○国語の授業は大切であるが97.2%、数学の授業は大切であるが92.2%の生徒が答えており、目的や課題を持って授業に取り組める生徒が多い。

課題への取組・改善策

【国語】

* 読みやすく分かりやすい文章にすることを意識して読み返す場面を設定する。

* 互いの発言を検討し、物事について別の立場や視点から考えることを通して、自分の考えを広げることができるようにし、広がった自分の考えを基にして、説得力のある新たな発言をするなど、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合う場面を設定する。

* 学校内の言語環境の向上を図る。

* 考える・調べる・発表するといった生徒の活動を大事にする。

【数学】

* 目的に応じて条件を設定し、事象に即して数学を活用できるようにする場面を設定する。

* 数学的な結果を事象に即して解決できるようにするために、方程式の解などの数学的な結果を、具体的な場面に即して意味付ける場面を設定する。

* 不確定な事象を考察する場面で、目的に応じて資料を整理し、資料の傾向を読み取って問題を解決できるようにする場面を設定する。

* 問題解決の過程を振り返って考えることができるようにするために、数学的な処理の手順を目的に応じて変える場面を設定する。

【その他】

* 課題(宿題)を出したり補習授業の実施を通して、学習習慣の確立と、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。